

シネマ203

北ぶらくり丁の小さな映画館

たまにはちょっと、映画でも



見たい映画を見逃す心配のない映画館に【日時オーダー受付中】

- 毎月の土日祝を中心に、シネマ 203 が上映時間を設定してスケジュールを発表します。
- 見たいのに行ける回がない！ という非常事態には、お気軽に **日時オーダー** お寄せください。
スケジュール空枠内でご希望の時間に、ご希望の上映作品を、追加上映いたします。
(追加上映は、HP、Facebook、Instagram で随時更新しますので、どなたでもご来場ください)
- 当日券あり、いつでもふらりとご来場ください。
なお、15 席の小さな劇場ですので、ご観賞の事前予約も各回 10 名様まで承ります。
(HP のスケジュールページに予約フォーム有。電話、メール、SNS メッセージでの予約も歓迎)

最新スケジュール →



入場料金 (基本料金)

一般：1,700 円 / 大專：1,500 円 / 小中高：1,000 円

- ※ 当日入口にて現金のみ。各回上映 10 分前開場。全席自由席。受付順にご入場ください。
- ※ 特集上映など各種割引料金の設定あり。詳しくは HP やチラシにて。



アクセス 【北ぶらくり丁会館 2F】 本町公園より徒歩 1 分
北ぶらくり丁と本町公園を南北につなぐ細い通りに
【北ぶらくり丁会館】の鉄看板アリ。奥の赤い階段を 2 階へ。

【駅から徒歩／バス】
和歌山市駅より徒歩 10 分／バス 1～2 分(800m)
和歌山駅より徒歩 25 分／バス 5～9 分 (2km)

北ぶらくり丁会館 203号室

cinema 203

シネマ203

9 月の上映



秋のアジア映画特集 [9月～10月]



和歌山市中ノ店北ノ丁 2 2
北ぶらくり丁会館 203 号室
090-8172-7074

cinema203.com





🎬 お待たせしました。熱狂と越境のアジア映画でクールダウン！

秋が来ました。アジアに詳しい本町文化堂に指南を仰ぎながら、アジア映画のあの頃と今を少しだけ覗いてみます。

マレーシア

まずは、本町文化堂が本屋プラグ時代の上映会で、和歌山市に初めて紹介してくれたヤスミン・アフマド監督から。代表作『タレンタイム』は、9/20(金)迄の日本最終上映ですのでお見逃しなく。複雑な人種・宗教の問題を超えて、胸に届く音楽がすべてを伝えてくれる感動作です。もう 1 本の傑作『細い目』は、みずみずしい初恋の物語。溢れる香港映画愛も含め、映画ファン必見です！

台 湾

偉大な侯 孝 賢 最後のプロデュース作『オールド・フォックス』は、侯監督の助監督が徹底した映画美術を受け継ぎ、台湾のバブル時代に翻弄される 11 歳の少年の葛藤を描いた心温まる作品です。理髪店つながりで 10 月に泣いてしまいそうな『本日公休』は、侯監督『非情城市』共同脚本でも知られるウー・ニエンチェンが製作を担当。2 本併せて台湾ニューシネマの遺産に触れて。

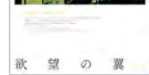
“純愛冥界ファンタジー”と銘打つ『赤い糸』は、本町文化堂イチオシ作品！2 億 6 千万台湾ドルのメガヒットを記録した摩訶不思議な台湾映画の底力を、大スクリーンで目撃してください。楽しみなのは、台湾の国宝級現役映画看板師に密着したドキュメンタリー『顔(イェン)さんの仕事』。10/12(土)には Kisssssh 映画祭で野外上映もあります！

香 港

選びきれない香港からは、思い切ってウォン・カーウアイを特集します。1997 年の返還というカラータイマーが点滅する街、もう二度と見られない 90 年代の香港が世界を席巻した熱狂を、若い世代と一緒に見たら……懐かしさを越えて、そこには何が写っているのでしょうか。乞う御期待。(他の監督は次の機会に！)

🎬 シネマ 203 [秋のアジア映画特集] 上映作品 (上映順)

マレーシア	タレンタイム	2009、ヤスミン・アフマド	9/1(日)～9/20(金)
台湾	オールド・フォックス	2023、シャオ・ヤーチュエン	9/1(日)～9 月末
マレーシア	細い目	2004、ヤスミン・アフマド	9/8(日)～9 月末
香港	欲望の翼	1990、ウォン・カーウアイ	9/14(土)～10/11(金)
台湾	赤い糸 輪廻のひみつ	2021、ギデンズ・コー	9/21(土)～10/18(金)
台湾	顔 (イェン) さんの仕事	2024、今関あきよし	9/28(土)～10/25(金)
香港	恋する惑星	1994、ウォン・カーウアイ	10/12(土)～10 月末
香港	天使の涙	1995、ウォン・カーウアイ	10/12(土)～10 月末



🍷 深まる秋から冬に向けて、長い映画をじっくりと (休憩を挟みますのでご安心を！)

爽りの秋。アメリカとイタリアから、ベテラン監督たちのリッチな作品が集まりました。

10 月の舞台はフランス。建築家パトリック・ブシャンが建てたレストラン〈トロワグロ〉に、94 歳の巨匠ワイズマンのカメラが入りました。病院、図書館、美術館……”施設”の歴史と今を映像で捉え続け、アカデミー賞名誉賞を受賞したドキュメンタリーの名手が贈る、最高の料理芸術のすべて。和歌山が誇る農業文化との密かなつながりを通じて、芳醇な至福の 4 時間を、目と耳でお召し上がりください。

そして 11 月は、慟哭の一大巨編、イタリアを揺るがした歴史的事件に肉薄した 340 分のドラマを。マルコ・ベロッキオ、85 歳。1965 年のデビューから走り続け 21 世紀に入ってますます輝くそのキャリアで、カンヌ国際映画祭の名誉パルム・ドール賞を受賞したばかりの偉才です。5 時間を超える超大作は、実はイタリアではお馴染みでもあって、ペルトルッチの『1900 年』(316 分！) が公開されたスバル座では、事前に注文を取って休憩時間にサンドイッチをお届けしたとか。贅沢な時代が懐かしくなる前・後編公開、ご期待ください。



◀10 月 『至福のレストラン 三つ星トロワグロ』

監督・製作・編集：フレデリック・ワイズマン
配給：セテラ・インターナショナル
(2023 年／仏語・英語／米映画／240 分)

ともに お得な前売券発売中 11 月▶

『夜の外側 イタリアを震撼させた 55 日間』

監督：マルコ・ベロッキオ
配給：ザジフィルムズ
(2022 年／伊語・英語／伊映画／340 分)



🍷 ヴァカンスの時間と、永遠の子供時代に乾杯。

38℃の日々。未体験の 8 月に、ギヨーム・ブラック監督がいてくれてよかった。どこにも出かけなかったけれど、たっぷりヴァカンスできました。そのやさしさに心穏やかになりながら、監督の語る「断絶のない世界」＝「ヴァカンスの時間」というテーマは、「映画館という空間」にも当てはまるのかもしれない、と勇気が芽吹いた夏でした。

80 年代～90 年代、あんなに映画を見ていたのに、アジア映画には食指が動きませんでした。『非情城市』(1989)を見るまで随分かかったし、20 代で見たときには正直ピンとこなかった。それが、20 年後にスクリーンで再会したとき、震えがくるほどの感動で圧倒されたことを思い出します。その

間、同じ台湾からはエドワード・ヤン、ツァイ・ミンリャン、香港はウォン・カーウアイやジョニー・トー、そして、イランのキアロスタミといった個性豊かな監督たちのおかげで、アジア映画をほかと区別せずに楽しむことも覚えていました。それでも、韓国映画に魅せられるのは世間よりだいぶ後になってしまったのは、不覚だったなと反省しきり。

シネマ 203 は、どうやったら断絶のない空間になれるのか……それにしても悩みのつきない 1 年でした。でも振り返れば、感謝で一杯。皆さんだけが道標です。これからもよろしく願います。

(北ぶらのコーリャより)

●本町文化堂 [音楽と無声映画 vol.3] 9/23(月祝)は『キートンの探偵学入門』!!／生演奏＝鳥飼りょう氏